大きく言って、現代では「きちんとする」方向へといろんな改革が進んでいます。これは僕の意見ですが、それによって生活がより窮屈に

きちんとする、ちゃんとしなければならない。すなわち、秩序化です。

なっていると感じます。

ることが必要な面もあるでしょう。しかし①改革の刃は、 というか、何かと文句を言われないようにビクビクする生き方になってきていないでしょうか。今よりも「雑」だった時代の習慣を切り捨て ンス」を意識するようになりました。のみならず、我々は個人の生活においても、広い意味でコンプライアンス的な意識を持つようになった 秩序から外れるもの、だらしないもの、逸脱を取り締まって、ルール通りにキレイに社会が動くようにしたい。企業では「\*コンプライア 自分たちを傷つけることにもなっていないでしょうか

に注目して拒絶され こうした現代の捉え方を、ここではごく大ざっぱに言うだけにします。じゃあ具体的にどういう問題があるかと例を挙げると、その例だけ ―「それをきちんとするべきなのは当然だ」と問答無用の反発を受けて――、話を聞いてもらえないかもしれないから

です。

なのです。 たときに再発防止策を立てるような場合、その問題の例外性や複雑さは無視され、一律に規制を増やす方向に行くのが常です。それが単純化 らないケース、ルールの境界線が問題となるような難しいケースが無視されることがしばしばである、と僕は考えています。何か問題 ですから時代の大きな傾向として言います。現代は、いっそうの秩序化、クリーン化に向かっていて、そのときに、必ずしもルー ②世界の細かな凹凸が、 、ブルドーザーで均されてしまうのです ルに収ま 心が起き

物事をちゃんとしようという「良かれ」の意志は、 個別具体的なものから目を逸らす方向に動いてはいないでしょうか。

そこで、現代思想なのです。

現代思想は、秩序を強化する動きへの警戒心を持ち、 秩序からズレるもの、すなわち 「差異」に注目する。 それが今、 人生の多様性を守る

ために必要だと思うのです。

なかで、二〇世紀の思想の特徴は、 人間は Α |に、社会および自分自身を秩序化し、ノイズを排除して、純粋で正しいものを目指していくという道を歩んできました。その 排除される余計なものをクリエイティブなものとして肯定したことです。

言い方で、 遡ると、 その原点は一九世紀の\*ニーチェの哲学にあります。ニーチェは 荒ぶる逸脱のエネルギーをクリエイティブなものとして肯定しました。 『悲劇の誕生』において、「\*ディオニュソス的なもの」という

る、みたいなイメージですね(それも「昭和的」になり、今では a|ヒンコウホウセイ|な人が好まれるのかもしれません)。 逸脱にクリエイティブなものが宿るという考え方は、二○世紀を通してポピュラーになりました。芸術家にはハチャメチャなところがあ

激しい社会運動で、 為=逸脱が必要だったのです。 な様態があります。 日常起こりうる軽い逸脱で、青春映画みたいな爽やかさです。「勢い」ですね。その一方で、最も極端には、犯罪という逸脱がある。 予定を超えて朝まで飲んでしまうとか、突然「今から海に行くか」となってレンタカーでドライブに出かけてしまうとか、そのくらいなら 考えてみてほしいのですが、ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害は法によって遂行されたのであり、抵抗するには違法行 法的にギリギリであるような行動などはどうなのか。法の隙をつく狡猾なビジネスはどうなのか。 逸脱には実にさまざま では、

ドックス」という有名な問題がしヒソんでいます。 のであって、ボタンを押したら答えが出るのではありません。ここには、\*ソール・クリプキというアメリカの哲学者が考えた ルールに則っている状態とはどういうことなのか。法的にセーフかアウトかというのは解釈が必要で、だから法曹の仕事が 「規則のパラ ある

が、デジタル・ネイティブの世代からすると、逸脱をポジティブに考えるというのは違和感があるかもしれません。 僕は一九七八年生まれで、九○年代から二○○○年代にかけて精神形成をした人間なので、二○世紀的なものをずっと背負っているのです

イメージで捉えられていました。ところが今日では、「他人に迷惑をかけるなんてありえない」という捉え方がけっこう本気で言われている 有名な「\*盗んだバイクで走り出す」という歌詞がありますが、あれはかつて、がんじ搦めの社会秩序の「外」に出ていくという B

今日では、 秩序維持、 安心・安全の確保が主な関心になっていて、以前のように「外」 に向かっていく運動がそう単純には言祝がれなくな

ようです。そういう解釈は当初は冗談だったのですが

っています。

のかという疑いを持ってもらいたいと思っています。というのも、それは戦時中のファシズムに似ているからです。 そういう状況に対して僕は、さまざまな管理を強化していくことで、誰も傷つかず、安心・安全に暮らせるというのが本当にユ ートピアな

僕は祖父母が戦争を経験しているので、皆が一丸となってひとつの方向を向くことへの警戒心をギリギリ教えられてきた世代です。そうい

う昭和の記憶があるからこそ、一人の人間が逃げ延びられる可能性が倫理的につねに擁護されるべきだと考えるのです。 必要だとしても、 過剰な管理社会が広がることへの警戒は言わねばならないし、 現代思想はまさにその点に関わっており、 犯罪の 人が自由に生きる c ヨクシ は

秩序をつくる思想はそれはそれで必要です。 しかし他方で、 秩序から逃れる思想も必要だというダブルシステムで考えてもらいたい ので

ことの困難について語っている思想だと思うのです。

す。

す。 がキッチリ整理整頓されすぎていると、絵が「硬く」なってしまう。なので、むしろいい加減にしているのだと。 たとえば机の上がめちゃくちゃだったら気分が悪いわけで、整理整頓したい。ところが、知人のアーティストから聞いた話ですが、 人間が С |につくり出す秩序ではない、 何かもっと D なノイズみたいなものがないと、思考が硬直化してしまいます。 この感覚は僕にもわ 机 かりま の上

りに管理できません。 僕は机の上に植物を置いています。 勝手な方向に延び、増殖もする。そういう③「他者」としての植物にときどき目をやると、 植物は自然の秩序ですが、 同時に、人間の言語的な秩序からは逃れる外部を示している。 物事を言葉でがんじ搦めに 植物は思 11 通

しようとしてしまう傾向に風穴を空けるような効果があります。

まっていく。だから人は恋愛をしたり、結婚したりもするのです。それは秩序をつくるためというより、攪乱要因とともに生きていくことが しようとすればするほど、わずかな逸脱可能性が気になって不安に d|力|られるのです。むしろ秩序の攪乱を拒否しないことで不安は

動物を飼うのもそうですね。他者が自分の管理欲望を攪乱することに、むしろ人は安らぎを見出す。ここが逆説的なのです。すべてを管理

## (中略)

必要だからでしょう。

力はあるのです ないなんてことは す。それは自分の秩序に従わない他者を迎え入れることを意味します。 秩序からの逸脱というと、暴走する人を褒め称えているみたいに聞こえるかもしれませんが、ちょっとイメージを変えていただきたいので 「ありえません。多かれ少なかれ、自分が乱される、あるいは自分が受動的な立場に置かれてしまうということにも人生の魅 それにはトラブルがつきもので、人と人が傷つけ合うことがまったく

あるし、 自分で自分の行動をきっちりコントロールでき、 自己啓発でもよく言われます。だけれど、 我々は他者とともに生きている。 主体的・能動的であるべきだ、受け身になるのはよくない、という考え方が世間には強く 他者に主導権があり、それに振り回されることがしばし

ばある。そのことがイヤなようでもあり、そこにこそ楽しさがあるようでもある。この両義性が重要です。能動的であればよいというわけで と受動性についても、どちらがプラスでどちらがマイナスかということを単純に決定できないのです。 はないのです。かといって、受動的になりきってしまい、他人の言いなりになってしまうのはそれはそれで困ったことです。だから、 能動性

このように、能動性と受動性が互いを押し合いへし合いしながら、絡み合いながら展開されるグレーゾーンがあって、④そこにこそ人生の

## リアリティがある。

(千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書)

\* 注 コンプライアンス=要求や命令に従うこと。特に、企業が法令や社会規範を守ること。

ディオニュソス=ギリシア神話の豊 穣と酒の神

ニーチェ=ドイツの哲学者 (一八四四~一九○○)。

ソール・クリプキ=アメリカの哲学者 (一九四〇~二〇二二)。ランスニュンシーヨリミテ神語の豊 科と沼の神

盗んだバイクで走りだす=尾崎豊(一九六五~一九九二)が作詞作曲した『15の夜』の歌詞の

部

問二 A D に入る言葉として適切なものを、 次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 歴史的 イ 有機的 ウ 普遍的 エ 解放的 オ 人工的

問三 線部① 「改革の刃は、 自分たちを傷つける」とはどういうことですか、 説明しなさい。

問四 線部② 「世界の細かな凹凸が、 ブルドーザーで均されてしまう」とはどういう意味ですか、 わかりやすく説明しなさい。

問五 -線部③ 「「他者」としての植物」とは、 植物が人間にとってどのような存在であると言っているのですか、 その説明として最も適

切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間の秩序から逸脱している植物は、言語に強く束縛されながら生きている人間の性質を相対的に示しうる存在である。

1 自然世界であるがままに生きている植物は、 管理社会の中でストレスを抱えた人間に心安らぐ時間をもたらす存在である。

ウ 生態系の維持に重要な役割を担う植物は、 環境のあるべき姿を人間に示すと同時に共存のあり方を具現化する存在である。

オ 工 人間 人間とは違い無欲である植物は、 の言葉が通じない植物は、 理解しあえない存在との望ましいコミュニケーションのあり方を人間に示唆しうる存在である。 人間の管理欲望を露呈させて理想的な人間社会を築くきっかけを与えてくれる存在である。

問六 線部④「そこにこそ人生のリアリティがある」とはどういうことですか、本文全体の論旨を踏まえて説明しなさい。

| 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

やうに守らせ給へ」と祈りける。 けて、立つことをいのらん」とて、観音堂にまゐりて、「願はくはわれらをあはれみ給ひ、 かなはず、 ればかかる生をうけて、 今は昔、 ただひょくひょくと跳ぶばかりにて早為もならず。いかにもして人のごとく立ちて行くならば良かるべし。 池のほとりに蛙のあまた集りていふやう、「あはれ生きとし生けるものの中に、 ②手足をばそなへながら、 aまことの心ざしをあはれとおぼしめしけん、そのまま後ろの足にて立ちあがりけり。 水を泳ぐを能として、 陸にあがりてはつくばひ居り、 せめて蛙の身なりとも、 ①人ほど羨ましきものはなし。 行く時も心のままに走り行くこと 人のごとくに立ちて行く いざや観音に願をか 「所願 われら、 成就した いかな

とし。 とい かふへ行かれず。 り」と、喜びて池に帰り、「bさらば連れ立ちて歩きて見ん」とて、 · へり。 蛙は、 浮世房聞きて、 おのれ鳥獣にだにもあらず、 先も見えねば危さ言ふばかりなし。「これにては何の用にも立たず。 「世間の人これらのたぐひに似たる事多し。 虫のたぐひにして、人を羨み、 陸に立ち並び、 とかく身のほどを知らざる故に、 立ちて行かんとすれども、 後ろ足にて立ちて行けば、 ③ただ元のごとく這はせて給はれ」 生れつき人に似ず、④目のつき所のあ 君を恨み世をかこつ者みなかくのご 目が後ろになりて一足も向 と祈りなほし侍り

しければ、立ちて行くべきものにあらずと、身のほどを知らざる故なり。」

(『浮世物語』による)

ア 蛙たちは、 心を込めて祈りさえすれば、観音は願いを聞き入れてくれるとでも思ったのだろうか

1 観音は、 ひたすら祈る蛙たちの態度に疑問を抱き、心の内を試してみようとでも思ったのだろうか

ゥ 蛙たちは、 不自由な生から逃れ、正当な権利を得ることができるはずだとでも思ったのだろうか

a

オ 工 蛙たちは、自分たちの生き方をただ嘆くだけでは、何の変化も得られないとでも思ったのだろうか 観音は、 あまりに切実な蛙たちの願いに心打たれ、 ぜひ叶えてやりたいとでも思ったのだろうか

ア 思い思いのところを歩こう

泳ぐのをやめて一緒に歩こう

ウ さあ、 並んで歩いてみよう

b

工 それなら歩くのはやめよう

オ

緒に歩いてから別れよう

問二 線部①とありますが、 蛙たちが「羨まし」と言う、「人」の特徴を本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問三 線部②についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

「手足を持っているおかげで」という意味で、「水中をうまく泳ぐことができる」に続いている。

「手足を持っているのに」という意味で、「水中を泳がなければならない」に続いている。

ゥ 「手足を持っているからこそ」という意味で、「水中でも陸でも過ごすことができる」という内容に続いている。

オ 工 「手足を持っているにもかかわらず」という意味で、直接的には「陸の上では這いつくばっている」に係っている 「手足を持っているのならば」という意味で、直接的には「陸の上では這いつくばっている必要はない」に係っている。

線部③とありますが、「元のごとく」とは蛙たちがどのようであったことを言っているのですか、答えなさい。

問四

線部④とありますが、これはどのようなことを指して言っているのですか、五十字以内で説明しなさい。

問六 浮世房は、蛙と人にどのような共通点があると指摘しているのですか、その説明として最も適切なものを、 次の中から一つ選び、 記号

で答えなさい。

ア 自分の理想像を定めながらも、その実現に向けた手段を誤ってしまう点。

1 自分の身の程を知らずに不幸な境遇にあると嘆いて、大それた望みを抱く点。

ウ 自分の願望を他者にも押し付けることで、周囲に不利益をもたらしてしまう点。

工 自分に備わっている性質に満足できず、常に変化を求めて失敗を繰り返す点。

オ

自分に対する評価を気にするあまり、

内面と行動との間に矛盾を生み出す点。

- 9 -
-------

次の文章を読んで、 後の問いに答えなさい。 (設問の都合上、 訓点を省略したところがあります。)

これが 半ざん 王 王 \* 麗ぅ 寡 矣。③願 而 成点。今邯 与 <sup>とも</sup>こ 太 王察之矣。」王 疑之矣。」「三人 至。ル 子質於 邯 王 龎 葱 ・罷質。 謂いとテ -也 遠 -於 b 果 水 不 言 魏 市 言 市 有 市、市、議・日 無虎 虎、 有 見。まみユルヲ 王 虎、 明 信之乎。」王 王 ラカナリ 臣,者, 矣。然 而 虎

『戦国策』による)

後、

太

子

\* 注 龐葱 = 魏の臣下の名。 質=人質となること。 邯鄲 == :趙の都。 寡人=わたくし。 諸侯や君主の自称。

議臣=私(=龐葱)のことを批判する。

讒言=他人を陥れるための、事実を曲げた告げ口

大梁=魏の都の

線部 a 「辞」・b「果」 の漢字の意味として最も適切なものを、 次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(ア 同行するのをやめて

問一

イ 王に別れの挨拶をして

エ 王の臣下の地位から退いてウ 安堵の表情を浮かべて

オ

王に不信の念を抱いて

a

| イ どうにもできず

ウ 意外なことに

b

 オ 不都合なことに

線部①は「一人市に虎有りと言はば」と読みます。これに従って返り点をつけなさい。(送り仮名は不要)

問二

問三 線部②はどういうことを言っているのですか、六十字以内で説明しなさい。

問四 線部③の説明として最も適切なものを、 次の中から一つ選び、 記号で答えなさい。

ア 皇太子とともに邯鄲に行くことを妬む者が現れるのではないかと危惧した龐葱は、 皇太子を守ることができるのは自分をおいて

他にないということを、魏王に信じ込ませようとしている。

1 邯鄲に行った後、自分に関してつまらないことを言う者が現れるに違いないと思った龐葱は、 そのような言葉に惑わされること

なく、自分のことを信じてほしいと魏王に訴えている。

ウ 自分に代わる信頼できる臣下を得るべきだと魏王に進言している。 魔葱は、人が最も大切にするのは自分自身であり、そのためには王をも平気で騙す場合があると諭しながら、 \*\*\* 自分が邯鄲に赴いた後は

工 **龐葱は、皇太子を守ることが務めであるとは言え、遠く離れた邯鄲の地に行かねばならない自分のつらさを語りながら、任務終了後は** 

すみやかに大梁に戻すよう働きかけてほしいと魏王に懇願している。

オ そが真の忠臣であるということを魏王に伝えている。 自分が邯鄲に行くことで、魏の行く末に不安を抱いた龐葱は、 君主に対しても臆することなく批判的な意見を述べるような者こ

問五 ――線部④について、以下の問いに答えなさい。

(1) この部分の説明として最も適切なものを、 次の中から一つ選び、 記号で答えなさい。

ア 魔葱の言葉を聞き入れ、自身で真実を見極めようと返答している。

イ 龐葱の言葉が理解できず、より丁寧に説明するよう求めている。

ウ 龐葱の言葉に疑念を抱き、自分で事の真偽を確かめようと述べている。

エ 魔葱の言葉をもっともだと判断し、彼を守ってやろうと答えている。

オー龐葱の言葉に心を動かされ、王としての務めを果たそうと伝えている。

(2)このような発言をした王は、結局どのようになりましたか、三十字程度で答えなさい。